

7th International Carbon Dioxide Conference (第7回 国際二酸化炭素会議)に参加して

檀浦正子

神戸大学自然科学研究科

2005年9月25日から30日までの5日間にわたり、アメリカ・コロラド州のデンバーに程近い町 Broomfield で国際二酸化炭素会議が開催されました。この国際学会は4年に一度開催されるもので、前回は日本での開催でした。これは二酸化炭素をキーワードとして多岐にわたる分野の研究者が集り大きく以下の5つのセッションが設けられていました。

The Fate of Fossil-Fuel Carbon Emissions
Land Use and the Terrestrial Carbon Cycle
Carbon Cycle Response to Environmental Change
Impacts of High CO₂ on Land and Ocean Ecosystems
Managing the Carbon Cycle

私は、Land Use and the Terrestrial Carbon Cycle のセッションとして、陸域炭素動態の中でも、森林生態系における炭素循環において根が果たす役割、という題目で発表を行いました。森林全体が放出する二酸化炭素量の約半分は土壌から放出されていると見積もられていますが、このいわゆる土壌呼吸量に樹木根系がどの程度寄与しているかについて、生態学的手法と気象学的測定を様々な組み合わせで推定した結果です。

普段は森林に関する研究に従事していますが、この会議で様々な国の様々な分野の研究者にあうことができました。このため、陸域のみならず、海域、またそれらを統括する炭素動態モデルのシミュレーション等についての発表を聞くことができ、視野が広がるとともに自分のスタンスが実感できたという意味においても有意義なものとなりました。

今後はこの経験を生かしてただ研究を行うとい

うだけでなく、それが社会的にどのような意義をもつのかを常に心におきつつオリエティの高い研究を行っていきたいと思います。

発表の形態としては、セッションごとにホールで口頭発表が行われ、参加者は全てのテーマを聞くことができます。またポスターセッションの時間は、朝1時間、午後1時間、コーヒープレイクをはさんでさらに1時間、が開催期間を通して設けられていました。大変数が多いのですが、発表者がどのセッションに属しているかに関係なく、30分を1コマとして自分で任意に6コマ以上選択し、その時間を表示するというものでした。この方法だと、見たいポスターをチェックしておけば、発表者と確実にコンタクトがとれるため、効率のいい方法だと感じました。

またエクスカージョンでは NCER (National Center for Atmospheric Research) や NOAA (National Oceanic and Atmospheric Administration) など、自然、気象、電力、などの施設を訪れることができるようになっており、私たちは NREL (National Renewable Energy Laboratory) を見学しました。アメリカの全エネルギーの6%を供給する Renewable なエネルギーの R&D を手がける施設で、風力発電用プロペラや、耐久実験室などを見ることができ、なにはともあれ全てが「ビッグ」な、アメリカの施設でした。

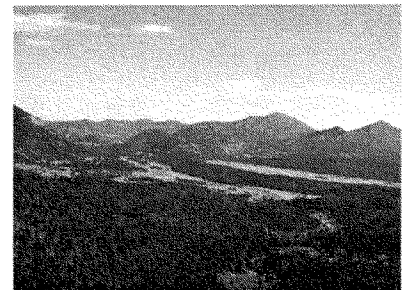
また、ロッキー山脈が近く、車で標高約3600mまでいくことができ、氷河地形や高山によるツンドラの植生を実際に目にすることができたのもまたいい体験となりました。



会場の様子



Pagoda Mtn. (4114m), McHenry's Peak (4063m)



氷河により形成された地形

2005年11月1日受付

* 連絡先 E-mail: dannoura_masako@yahoo.co.jp

会議への参加の一部は、根研究会「苺住」海外渡航支援を受けています。